

●5月13日（土）13:30 分から「ハンバーグダイニングたくみ」で研修会（勉強会）を開催します

これまでいつも女性の皆さんにはボランティアとして食事を用意していただき、終われば後片付けなどで面倒をかけてきました。七草摘みや春の野草を食する会、竹蛇籠の製作・中聖牛づくりなど、里山の会の野外の活動では随分とお世話になってきました。こうした献身的な支えによって参加者の方々からは大きな喜びや感謝の言葉をいただきました。ところが、こうした後ろで苦勞に報うことが少なく当たり前のようになっていく事への配慮があつてしかるべきではないかとの意見がありまして、理事一同の落ち度ではないかとの声で今回の勉強会（研修会）の取組になりました。内容的には木村敏和様から「絶滅危惧種」についての学習成果を問題提起にしてお話を深められればとお願いしております。母ちゃんズの中には植物に対する理解を深める機会があればとの要望が寄せられていますので、理解を深められると思っています。今回諸般の事情でご出席できない方には今回だけの取組にしないで、次回には準備期間を取っての取組が出来ればと考えています。今のところ19名の参加申し込みがありました。

●2022年度京都府地域交響プロジェクト最終修正実施

交響プロジェクトの担当官から報告書記載不十分なところが沢山あつて、修正への丁寧なご指摘とつたご指導をいただきました。何しろパソコン操作には不自由なところが沢山あつて、その上に事務能力の点では全くの素人で、やきもきしながら報告書を作るものですから大変ご迷惑をかけてきました。ようやくの事、審査には間に合ったのだらうと思います。ここに担当者のお方に心からお礼を申し上げます。京都府のこの交付金制度は2/3の交付で簡単に言えば持ち出し金が30%で済むという制度で弱小団体の里山の会にとっては願ったりかなったりの非常に優れた有難い制度です。これまで数年にわたってこの制度を活用させて頂き、印刷機や草刈り機の購入をさせて頂きました。また講師の先生の講師謝金に利用させて頂き多くのことを学習させて頂くことができました。一方多くの助成制度に挑戦して財政援助に挑戦してきましたが、思うように合格する事は大変難しいものです。例え合格したとしても申請書類や報告書類の作成には大変な苦勞が伴います。しかし京都府のこの制度は直接問題点をお聞きすることができ、ご指導に伺うことが可能で、里山の会の力量では本当に有難い制度であります。

一般的に受け取る側が自由に使えるそのような制度はほとんどなく、資金提供者の意向に沿うことが求められます。少しは不自由な部分が生じるのを承知で申請しているのです。そして報告書事務も簡単なものではなく苦勞が伴うものです。イベントを、社会貢献を、そして「自然を大切に仲間を輪を大きくする」とするスローガンに向かって献身的に頑張ってくださいの会員・社員・理事の方々の一致団結したご協力があつて実績を積み上げられてこられたものです。これまで里山の会は約10年近くも連続して交付金を受け続けてこられたのは実績を高く評価いただいているからではないでしょうか。一度信用を失うと回復は大変なことだとは皆さんご承知ではないでしょうか。

●竹サインペン製作 この取り組みは 選挙の時に候補者を書き込むために大量の鉛筆が用意されていること、またゴルフ大会でスコアを書き込むために用意されている「使い捨てプラスチックサインペン」に疑問を感じ、環境問題に対応すべきではないのかと疑問を持ちました。今、里山は竹が繁茂して困り果てている地主さんの声を聞きました。また、この製作にはお体の不自由な方に関わってもらい、障がい者雇用の一助になればとも考えています。この山城地域にはエジソンの伝統発見の竹、お水取りの竹、やましろのタケノコの竹、などがあります。まさに農家の悩

み、お身体の不自由な方の悩み、を解決していく取組として竹を材料にしたモノづくりが必要と考え、竹を利用したサインペン作りに気付き、試作で1本1本作り上げていただき、製作の可能性を示していただきました。これなら可能だとなつて、1番最初にぶつかったのが、素材の竹を割って素材を大量に簡単に手作りできる道具に悩みました。高山の茶筌工場、模型飛行機の竹ひご作り屋さんを訪ねました。結果まずは手作業でやるしかないとして考え付いたのがこの木型でした。これなら簡単にいくらかでも素材生産が可能となってきました。まだまだ課題は山積みですが素材を作り上げる道具ができたことで大きく一歩を踏み出すことになりました。



●本日（5月10日）の事務局会議から 年間イベントの担当者の決定を

これまでは、直前の事務局会議で当面の事業をどうするかとの打ち合わせで、事前準備が不十分でも力からまかせてイベントの実行に経験にものをいわせて推進してきました。それでも何とか年間60回以上をこなし、実績を積み上げられてきました。

今高齢化と体力の後退の中で、次世代を受け継ぐ人育ては、この経験主義方式では若い人の呼び込みは難しいのではないかと、最低3ヶ月前に概略が決められ、準備期間を準備の必要性が理解され始めました。これは3月の講演会の取組で206人の参加を得た取組から、また秋の第25回里山講演会の取組は300人の参加を目標にした場合、ここ数週間で概略を決定しないと間に合わない指摘されて、3ヶ月前に概略を決定しなければ開催が不可能だと気付き、取組を始めることになりました。

具体的にこうした進め方をするためには、素案を起案する担当者が決定されていないのではないとなつて、今回の事務局会議で担当者の提案をすることになりました。

イベント担当者を決めようとなつたのはものすごい前進です。スタッフの重荷を軽くする取り組みが始まりました。理事の成長が見える形になってきました。画期的なことで、山村外しになるのではないかと冗談が出るようになりました。里山のパソコンにはこれまでの記録が大半残っていますので、資料は豊富にありますので、活用くださって、力を発揮していただきたいと思います。また、このような取り組みを考えました。など、会員諸氏からご提案も頂けるように発展すれば非常にいいのではないのでしょうか。

●里山農園の新イノシシ対策進む（青い部分）

これまで里山農園では白土山探検遊歩道や、丸山平坦化が実現し、これまでの栽培農業専門から幅広く自然とわんぱくが戯れる施設に発展してきましたが、イノシシ被害は完全に防御できず困り果ててきました。今回防護網を撤去して徹底的に除草を行い一部分から取組の改善が始まりました。多くの皆さんからの取組への物心両面からのご協力をお願いいたします。現在、一番奥の一号地の除草作業を行っています。5m幅の除草中です

